

中山間地域におけるまちづくりへの取り組みと評価について

福島工業高等専門学校 学生会員 ○板倉彩香, 渡辺彩花
正会員 齊藤充弘

1. はじめに

現代社会において中山間地域の豊かな自然環境は、人々に憩いや安らぎを与える空間である。また、そこには高原野菜の栽培や、生存数が減少している蛍の生息等、地域独特のものが存在している。このように、多くの魅力があると同時に人口減少に伴う多くの課題を抱えている中山間地域においては、身近な生活環境の整備とともに振興につながるまちづくりが必要であり、そのためには現状を把握し、将来のまちのあり方について検討する必要がある。

本研究は、中山間地域に位置づけられるいわき市三和町上三坂地区⁽¹⁾を対象として、まちづくりへの取り組みを報告するとともに、住民のまちやまちづくりに対する意識と評価を明らかにすることを目的とするものである。その上で、まちづくりに取り組む上での課題を追究していく。

2. 研究の対象と方法

2.1 研究対象

いわき市の中でも人口の減少が著しい三和町においては、豊かな自然環境の維持や基幹産業である農林業の継承、祭りなどの伝統行事の維持・継承が難しくなるなど深刻な問題が顕在化してきている¹⁾。これらの問題を解消し、将来にむけてのまちづくりに取り組まなくてはならないとの思いより、平成20年度から22年度にかけて、いわき市の公募する「大学等と地域の連携モデル創造事業」⁽²⁾に応募・採択され、三和町地域振興協議会と三和支所、学校(福島高専)による3者の連携・協力の下にまちづくりに取り組んでいる。具体的には、魅力・財産や課題などのまちづくりの要素を明らかにすることを目的として取り組み、平成23年度には「三和町まちづくり基本構想」が策定された。その内容は、三和町内11の大字単位で地区懇談会(ワークショップ)やまち歩き、住民に対するヒアリング調査やアンケート調査を実施し、11地区ごとに魅力・財産や課題を明らかにした^{2), 3), 4)}。

まちづくり基本構想の策定を受けて、上三坂地区ではいち早く、地区として構想を具体化することに取り組むために、上三坂行政区が中心となって、平成24年度に入り「上三坂未来づくりプラン策定委員会」を立ち上げた。そこでは、基本構想において明らかにされた地区のまちづくり要素について、具体化・明確化を図り、まちづくりとしてどのように活かしていくことができるかについて検討を行っている。

2.2 研究方法

本研究においては、上三坂地区の住民のまちやまちづくりに対する意識と評価を明らかにするために、住民を対象としてアンケート調査⁽³⁾を実施した。調査の概要を表1に示す。地区の現状や今後に対する意識や評価について、まちづくりへ取り組む姿勢など合計13項目86問よりなる調査項目⁽⁴⁾により尋ねた。

表1 アンケート調査の概要

対象地域	いわき市三和町上三坂地区
調査項目	・自身のことについて、・現在の上三坂地区について、・上三坂地区の環境について、・小学校時代のことについて、・これからの地域づくりについて、・土地利用について、・居住環境について、・保健、医療、福祉について、・コミュニティ活動について、・ボランティア活動について、・産業の振興について、・消防・防災体制について、・今後上三坂地区が発展するために必要なこと 全13項目・86問
調査期間	2012年8月～9月
調査方法	訪問留置調査法
配布・回収数	109票

3. 地区の現状と評価

3.1 年齢層にみる地区の現状と評価

調査回答者の属性に基づき、50歳未満と50歳以上の年齢層に分類⁽⁵⁾し、地区の現状と評価について分析した。その結果を表2に示す。

3.1.1 地区の良いところ・良くないところ

「上三坂地区の良いところ」について、「美しい自然が多くある」をはじめ11項目より選択して(複数)回答してもらった。その結果、「美しい自然が多くある」が回答数71と最も多く、次いで「おいしい空気や水がある」(同62)、「おいしい野菜や料理が食べられる」(同41)となっている。これを年齢層により回答数をみると、50歳未満においては、一人平均2.7の項目を選択・回答しており、同様に50歳以上においては4.1の項目を選択・回答しており、50歳以上において良いところを多くあげていることがわかる。

一方、「上三坂地区の良くないところ」についてみると、全体として「子供が遊べる場所が少ない」が回答数52と最も多く、次いで「大人と一緒に遊べる場所が少ない」(同39)、「交通事故などがおきやすい危ないところがある」(同21)となっている。これを年齢層により一人あたりの回答数をみると、50歳未満において1.8、50歳以上において1.7となっており、こちらについては同様の結果となっている。

3.1.2 住みやすさ

「上三坂地区はあなたにとって住みやすいまちですか。」との問に対して、5段階で評価してもらった。その結果、「どちらとも言えない」が回答割合41.1%と最も高く、次いで「まあまあ住みやすい」(同33.3%)、「あまり住みやすくない」(同10.0%)、「とても住みやすい」(同8.9%)、「住みやすくない」(同6.7%)と

表2 年齢層にみる地区の評価

	良いところ	良くないところ	住みやすさ	好き・嫌い
	回答数		評価点数	
50歳未満	2.7	1.8	-0.2	0.5
50歳以上	4.1	1.7	0.6	0.8

キーワード：地方都市、中山間地域、まちづくり、住民アンケート

連絡先：〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校建設環境工学科 TEL 0246-46-0830

なっている。

この評価を点数化⁽⁶⁾してみると、50歳未満の平均点は-0.2点、50歳以上の平均点は0.6点となっており、50歳未満においてマイナスの評価となり、年齢層による評価の違いをみることができる。

3.1.3 好き・嫌い

「あなたは上三坂地区が好きですか。」との問に対して、同様に5段階で評価してもらった。その結果、全体として「どちらかと言えば好き」が回答割合44.5%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」(同34.3%)、「大好き」(同14.1%)、「どちらかと言えば嫌い」(同6.1%)、「大嫌い」(同1.0%)となっている。

この評価を同様に点数化⁽⁶⁾して年齢層によりみると、50歳未満の平均点は0.5点、50歳以上の平均点は0.8点となっており、同様の評価点となっている。

3.2 地区外での生活経験

回答者の居住歴についてみると、「生まれてから上三坂にずっと住んでいる」人の割合は47.0%であり、地区外での居住歴がある人の割合は53.0%である。そこで、地区外での居住歴の有無によるまちに対する評価について分析した。その結果を表3に示す。

3.2.1 住みやすさ

住みやすさについて、その評価を同様に点数化して居住歴によりみると、「ずっと住んでいる」という回答者の平均点は0.7点、「地区外での居住歴あり」の回答者の平均点は0.2点となっている。

3.2.2 好き・嫌い

「あなたは上三坂地区が好きですか。」との問に対して、やはりその評価を同様に点数化して居住歴によりみると、「ずっと住んでいる」回答者の平均点は1.2点、「地区外での居住歴あり」の回答者の平均点は0.6点となっている。このことより、住みやすさについてと同様に、「ずっと住んでいる」人による地区の評価が高い形となっている。

4. まちづくりに対する意識

4.1 住み続けたい意識

「上三坂地区に今後もずっと住み続けたいと思いますか。」との問に対して、「強く思う」が回答割合50.0%であり、次いで「条件を整えば考えたい」(同35.2%)、「まったく思わない」(同14.8%)という結果となった。このうち、「強く思う」または「条件を整えば考えたい」との回答の理由としては、「慣れ親しんだところで暮らしたいから」(回答割合32.1%)、「家のあとを継ぐから」(同23.7%)、「自然が豊かだから」(同21.4%)となっている。

4.2 まちづくりへの参加

上三坂地区に今後もずっと住み続けたいと「強く思う」回答者について、まちづくりへの参加をみると、「さまざまな地域活動」について「積極的に」もしくは「内容によって」参加しているという回答割合は75.5%となっている。その内容としては、「地域づくり活動」が51.1%と半数を占めている。

表3 居住歴にみる地区の評価

	良いところ	良くないところ	住みやすさ	好き・嫌い
	回答数		評価点数	
ずっと住んでいる	3.6	1.9	0.7	1.2
地区外での居住歴あり	3.5	1.7	0.2	0.6

また、今後のボランティア活動への参加意思についても同様にみると、「参加したい」、「どちらかというに参加したい」との回答割合が81.8%となっている。その内容については、「自然保護や環境保全、リサイクル等に関するボランティア活動」の回答割合が36.2%と最も高く、次いで「地域づくりやむらおこしに関するボランティア活動」(同17.0%)にみるように参加意思が多岐にわたっている。

5. おわりに

本調査・研究により、第一に年齢層や居住歴にみる属性の違いによりまちの評価やまちづくりに対する意識の違いを明らかにすることができた。また、第二にまちに「住み続けたい」という意識とまちの評価やまちづくりに対する意識の違いを明らかにすることができた。構想の策定を受けて具体的に取り組むまちづくりにあたっては、上三坂地区のような大字(コミュニティ)を単位として、その評価や参加意識を高めることにつながる活動をしていくことが求められる。

補注

(1) 平成22年度国勢調査より、三和町の人口は3,424人、世帯総は1,080、上三坂地区の人口は353人、世帯数は117である。

(2) 市内の大学等とさまざまな団体(市民団体、NPO、事業者、他の大学等)が連携して行う、地域課題の解決につながる実践的な調査研究や人材育成、実証などのモデル的な取組みを公募し、市の委託事業として実施するものである。平成22年度は、「大学等と地域の連携したまちづくり推進事業」と名称を変更して取り組まれた。

(3) 調査票の配布は、世帯に対して行い、全117世帯のうち回答可能な109世帯より回答を得た。

(4) 調査項目の設定にあたっては、三和町全体としてのこれまでのまちづくり事業により得られた成果を基にして、質問項目や選択肢を設定・作成した。

(5) 回答者の年齢層の内訳として、50歳未満の割合が37.9%、50歳以上が62.1%という結果となった。

(6) 「とても住みやすい(大好き)」を2点、「まあまあ住みやすい(どちらかと言うと好き)」を1点、「どちらとも言えない」を0点、「あまり住みやすくない(どちらかと言えば嫌い)」を-1点、「住みやすくない(大嫌い)」を-2点として集計した。

参考文献

1) 渡辺彩花、齊藤充弘：人口構成に着目した中山間地域の実態と変化について～いわき市を対象として～、平成23年度土木学会東北支部技術研究発表会、IV-58、(2012)

2) 齊藤充弘：大字単位にみる中山間地域の地域構造とまちづくり計画策定への取り組みについて～いわき市三和町を対象として～、都市計画論文集 No. 46-3、pp. 331~336、(2011)

3) 三和町地域振興協議会、福島高専：中山間地域における市民と学校が連携したまちづくり事業報告書(2011)

4) 三和町地域振興協議会、福島高専：三和の魅力・財産(2010)